

第1章 群馬県文化振興指針（仮称）策定の基本的な考え方

1 趣 旨

群馬県では、文化の優れた価値を認識し、文化の振興、文化を通じた人づくり、文化資産の保存及び活用等を図り、郷土への誇りと愛着を深め、群馬らしい文化の高揚を目指すため、群馬県文化基本条例を制定（平成24年4月1日施行）しました。

群馬県文化振興指針（仮称）は、文化行政の目指すべき方向を示す同条例の各規定を踏まえ、文化の振興に関し、総合的かつ効果的な推進を図る基本的な施策を示すために策定するものです。

2 方針の期間

平成25年度から平成29年度までの5年間とします。

3 構 成

群馬県の文化の特性、現状と課題を踏まえ、先人から受け継いできた本県が持つ文化の限らない可能性を考えます。

次に、基本理念、基本目標など、本県が目指すべき文化行政の方向を示すとともに、推進していくための実効性の確保や姿勢を示します。

最後に、県民アンケート調査結果等を踏まえ、文化振興施策を総合的かつ効果的に推進していくための基本的な施策を示します。

<5部構成>

- 指針策定の基本的な考え方
- 群馬県の文化の現状と課題
- 目指すべき文化行政の方向性（基本理念、基本目標）
- 施策推進に当たっての考え方
- 基本的な文化振興施策

4 策定の方法

本指針は、学識経験者、文化活動を行う者、文化関係団体の代表者等で組織する群馬県文化審議会において原案を作成し、群馬県議会における審議・議決を経て策定します。

なお、市町村及び文化団体から意見を聞く場を設けるとともに、指針骨子と最終素案段階の二回にわたりパブリックコメントを実施することで、幅広く県民の意見を聞き、指針に反映します。

また、第4次群馬県総合計画「はばたけ群馬プラン」を補完する文化分野の振興に関する個別計画として策定します。

＜群馬県文化基本条例 前文＞

文化は、人が自らの可能性を求めようとする創造的な営みであり、人々に楽しさ、感動、安らぎと生きる喜びをもたらすものである。また、人々の心のつながりを育み、多様な価値観が共有される社会で強い絆となり得る。

私たちの郷土群馬は、古代から東国文化の中心地として脈々と築き上げてきた歴史と多彩な文化に富んだ地域であり、近代から現代にかけては産業、教育及び芸術の各分野で輝かしい歴史を有している。また、取り巻く豊かな自然も私たちの文化と暮らしを支え、各地域で継承されてきた伝統文化は、人々の結びつきを強くする役割を果たしてきた。昭和五十六年には、全国に先駆けて「文化県群馬」を宣言し、県を挙げて文化振興に取り組んできた。

しかし、今日、社会環境、経済状況等の変化により人と人、人と地域とのつながりが希薄になってきている。このような環境の中、県民による主体的かつ多様な文化活動の尊重を基本とし、文化の振興、文化を通じた人づくり、文化資産の保存及び活用等を図っていくことは、郷土への誇りと愛着を深めるとともに、心豊かな活力ある地域社会の形成に寄与し、本県の発展に不可欠なものであると確信する。

ここに、私たちは、文化の優れた価値を認識して、これを育み、新たに創造し、次世代に継承し、更に発展させていくことにより、群馬らしい文化の高揚を目指すとともに、先人から受け継いできた群馬の限りない可能性を大きくはばたかせるため、この条例を制定する。

第2章 群馬県の文化の現状と課題

1 群馬県の文化の特性

(1) 群馬の風土

群馬の風土は、「雷」と「からっ風」、「関東ローム層」、「首都圏の水源地」など、本県の人間性や文化の醸成に大きな影響を持っており、群馬県の文化を形づくっているものの中で、その根幹をなしているものです。

■ 上州名物「雷」と「からっ風」

群馬県の夏は暑くて、冬は寒いといわれます。夏場に集中して発生する「雷」は、落雷による被害のほか、浸水害、突風害、降ひょう害をもたらすなど局地的に激しいことが特徴です。また、秋の終わりから春の始めにかけては、冷たく乾燥した季節風「からっ風」が強く吹きます。

■ 群馬の大地 関東「ローム」層

群馬県の土は、降下した火山灰や軽石の風化したもの、火山岩が風化したものなど、多くは火山噴出物からできています。県内で広く見られる赤土の層は「関東ローム層」と呼ばれ、一つの山の一度の噴火で積もったものではなく、数多くの火山により約1万年前までに数十万年をかけて形成されました。

■ 豊かな自然の宝庫

私たちの暮らしと文化は、古くから信仰の対象として密接なかかわり合いを持ってきた上毛三山（赤城山、榛名山、妙義山）や利根川のほか、国立公園の特別保護地区に指定されている尾瀬に代表される自然に支えられています。

■ 首都圏の水源地

群馬県は、板東太郎とも呼ばれ、日本で最も広い流域面積を誇る「利根川」の水源地であり、首都圏の水がめとして重要な機能を果たしています。また、山地が多い地形は各所に湧き水が見られるなど、きれいな水と空気は、古くから人々の生活を支えてきました。

■ 農業王国

利根川水系の豊潤な水と、冬の長い日照時間に恵まれ、標高10mの平坦地から1,400mの高冷地まで標高差がある地形を活かして、一年を通して多彩な農作物が生産されます。

■ 日本屈指の温泉王国

群馬県は日本屈指の温泉王国です。にっぽんの温泉 100 選（観光経済新聞社主催）で 9 年連続 1 位「草津温泉」のほか、伊香保、万座、四万、水上の各温泉が毎年上位にランクされています。温泉地は 100 か所を超え、1000 年以上の歴史を持つ古湯もあります。泉質の種類が多いのも群馬の温泉の特徴です。

(2) 群馬の歴史と文化

古代から脈々と続いてきた群馬の歴史。これを知ることが、今の群馬の本当の姿を知ることにつながります。

■ 古代東国文化の中心群馬

古代から東国文化の中心地として脈々と築き上げてきた歴史と多彩な文化に富んだ地域であり、古代の東国文化の隆盛をしのばせる古墳群、さまざまな伝説を持つ由緒ある神社仏閣など、歴史的な遺跡や文化財が数多く存在します。

- ・ 日本の歴史を変えた「岩宿遺跡」
- ・ 東日本最大規模を誇る「太田天神山古墳」
- ・ 国の特別史跡である「上野三碑」
- ・ 全国屈指の保存状態の良さを誇る「上野国分寺跡」
- ・ 新田義貞ゆかりの太平記の里「新田荘遺跡」
- ・ 奇岩で有名な信仰の拠点「榛名神社」

東国文化とは

現在の関東地方とその周辺を含む東日本が「東国」と呼ばれ、ヤマト政権や律令政府が関東から東北までの一帯を治めるための拠点として群馬が重視されてきた古墳時代から、平安時代にかけての文化を指す言葉として使っています。

本稿で「古代東国文化」と言った時には、岩宿遺跡に始まる旧石器時代から平安時代までが対象となります。

■ ものづくり群馬

群馬県では、古墳時代に大陸の先進技術が導入され、土地開発や馬生産などが開始されました。7世紀以降、古墳時代以来の先進文化と技術を基盤として、新たな文字や仏教文化を取り入れ、高い生産力や技術を持っていました。中世・近世においても、人、モノ、情報の流通の拠点としての歴史を刻み、富岡製糸場や中島飛行機製作所など群馬の近代産業へとつながり、現在のものづくり群馬へと受け継がれています。

- ・ 日本の近代化に貢献した絹産業を代表する「富岡製糸場」
- ・ 伊勢崎銘仙、桐生お召、西上州地域の裏絹など絹織物の一大生産地

- ・日本の最先端技術を大きく前進させた「中島飛行機」

■ 風土と生活の知恵がつくりあげた伝統工芸

本県の伝統工芸は、繊維製品、木工品をはじめ、竹細工や金工品、陶器・ガラス製品、和紙、瓦、そして、だるまや創作こけしなどの諸工芸品のほか、地域の風土や人々の生活の知恵がつくりあげた多彩な品々が存在します。

■ 交通の要衝

古来より西日本と東日本の政治と文化を結ぶ交通の要衝にありました。古くは奈良時代の東山道駅路、中世にはあずま道や鎌倉街道、江戸時代には中山道、その他多くの街道、現在も、東京圏、信越地方、東北地方、中京圏を結ぶ交通の結節点として、高速交通の十字軸を形成する高速道路網や新幹線が整備されており、文化が伝播し、交わる地です。

- ・京都から日光へ勅使が通った「日光例幣使街道」
- ・幕府御用銅を運ぶ「足尾銅山街道（あかがね街道）」
- ・中山道の関所跡「碓氷関所跡」
- ・今も風情ある面影が残る県内各地の宿場の町なみ（坂本宿・玉村宿など）

■ 地域に根ざした伝統文化

古代から東国文化の中心地として、また、江戸時代には養蚕や交通の要衝として栄えた豊かな地域社会を背景にして、農村歌舞伎や人形芝居、神楽、獅子舞、民俗行事、民謡・民舞など、多くの地域に根ざした伝統文化が県内各地に息づいています。

- ・農村歌舞伎「上三原田歌舞伎舞台」（国重要有形民俗文化財）
- ・人形芝居「尻高人形」（国選択無形民俗文化財）
- ・渋川市北橋町下南室赤城神社の神楽「養蚕の舞」
- ・月田近戸神社の獅子舞（県重要無形民俗文化財）
- ・福だるまと養蚕
- ・民謡・民舞「八木節」

■ 生活に根付いた食文化

冬の長い日照、からっ風、水はけのよい土壌などは小麦の栽培に適した環境です。このため、県内では、小麦粉を使った食文化、「粉食文化」が根付いてきました。

- ・郷土料理「おっきりこみ」「焼きまんじゅう」
- ・ご当地グルメ「焼きそば」「もんじゃ」

■ 美しい魅力的な風景を語る短詩型文学

日本最古の万葉集の第14集に収められている「東歌」には、古代の群馬「上野国」が東国の中では最も多く歌われています。群馬の美しく、魅力的な風景が、短歌や俳句、詩などの形で表現され、歌われてきました。また、江戸時代には高崎藩などでは詩歌が栄え、また農村においても富裕層を中心に俳諧や和歌が盛んにおこなわれ、各地で句碑が建てられるなどしました。

- ・ 日本近代詩の父と称される「萩原朔太郎」
- ・ 大正の花壇に一時代を築いた「土屋文明」

■ 群馬特有の文化

地方交響楽団の草分けとして長い歴史を持つ「群馬交響楽団」、群馬の歴史や営みを凝縮した「上毛かるた」など、地域に根ざした文化資産が広く県民に親しまれています。

<群馬交響楽団>

「群馬交響楽団」は、昭和20年11月、高崎市民オーケストラとして誕生しました。終戦直後の社会を音楽で明るくしようと、音楽家たちが集まり楽団を結成したもので、地方オーケストラとしては最も古い歴史を誇ります。

昭和22年5月から、小・中学校を訪問して生演奏を聴かせる移動音楽教室がはじまり、延べ600万人もの小・中学生が鑑賞しています。

現在は、県内すべての子どもたちが、中学校卒業までに3回、授業で群響の演奏を聴くことができます。

<上毛かるた>

「上毛かるた」は、昭和22年に作られました。「上毛かるた」の札には、上毛三山をはじめとした県内の自然や温泉、歴史上の人物や地域の産業など群馬県の特徴が読み込まれており、時代を超えて県民に親しまれてきました。

今でも県内の各地域で毎年「上毛かるた」大会が開かれています。

県では、「上毛かるた」の一札一札に取り上げられた事象を解説した冊子を作成し、郷土のことを学習する小学校4年生の副読本として活用されるよう、配布しています。

(3) 群馬の文化が持つ限りない可能性

文化は、人が自らの可能性を求めようとする創造的な営みであり、人々に楽しさ、感動、安らぎと生きる喜びをもたらすものです。また、人々の心のつながりを育み、多様な価値観が共有される社会で強い絆となり得ます。さらに、文化が

有する創造性が新たな需要や高い付加価値を生み出し、より質の高い経済活動を実現する原動力にもなります。

今日、社会環境、経済状況等が大きく変化する中で、県民の郷土への誇りと愛着を深めるとともに、心豊かな活力ある地域社会を築き、本県が発展していく上で文化は不可欠なものです。

群馬は、古代から東国文化の中心地として発展してきた歴史と文化を備え、豊かな自然環境に恵まれた、多彩な魅力に満ちた地域です。

本県が持つ文化の価値を認識して、これを育み、新たに創造し、次世代に継承し、更に発展させていくことにより、群馬らしい文化の高揚を目指すことで、さらに大きくはばたかせていくことができます。

■ 未来に向けて

私たちの生活の中に溶け込んでいる身近な食文化や、見慣れた風景の中に埋もれている歴史文化資産など、文化を広く捉え、本県の文化的風土を再評価し、地域づくり、観光振興、イメージアップなどに活かしていくことは、未来への投資につながります。

■ 郷土への愛着や誇りの育成

子どもたちに、群馬の歴史・文化を伝えることは、郷土への愛着や誇りを育むことにつながります。

■ イメージアップ

県民が郷土の歴史・文化の素晴らしさを知ることは、県民の一人一人が自信を持って外に向かい情報発信するようになり、本県のイメージアップにつながります。

■ 安全・安心な地域社会の構築

地域の伝統文化を守り、伝えていくことは、地域の絆を深め、安心・安全な地域社会の構築につながります。

■ 地域の活性化

地域の文化資産を観光や地域振興、まちづくりなどに活用していくことは、地域の価値を高めるとともに住民の意識を高め、地域の活性化につながります。

このように文化は限りない可能性を秘めています。

2 群馬県の文化を取り巻く現状と課題

昨今、社会情勢は急速な変化を続け、文化を取り巻く環境も大きな影響を受けています。

(1) 現 状

①人口減少社会の到来と少子高齢化

人口減少社会が到来し、少子高齢化や過疎化等の影響により、地域コミュニティの衰退と文化の担い手不足が指摘されており、地域の文化を支える基盤の脆弱化に対する懸念が広がっています。

②多様な主体による文化活動

これまで県内の文化活動の中心となっていた文化協会加盟の文化活動団体は減少していますが、文化芸術活動関係のNPO法人は増加しており、多様な主体による文化活動が行われています。また、民間と行政の協働による取組が進められ、企業のメセナ活動も多様な広がりを見せています。

③伝統文化継承の危機

市町村合併による地域活動の広域化や山間地での過疎化が進む中、コミュニティ機能が低下し、地縁的なつながりや、人と人との絆が希薄になってきています。

県内の伝統文化継承に係る実態調査を平成20年に実施したところ、神楽・獅子舞等の民俗芸能の約4分の1、祭り・行事の約1割近くが「継承の危機」にあることがわかりました。

④全国からみた本県の文化環境

全国からみた群馬県の博物館数については全国第20位、文化会館数については全国第16位であり、全国平均数を上回っています。一方、公立文化会館における主・共催公演数については全国第22位、入場者数については全国第16位ですが、大都市圏の公演数や入場者数が多いことから、全国平均数をやや下回っています。

首都東京から100km圏内に位置し発展を遂げてきた本県は、音楽や演劇などの舞台芸術や美術作品の鑑賞などの面で、東京への依存が指摘されています。

⑤本県の文化的価値と地域ブランド力とのギャップ

群馬県は、地域ブランド力が低く、歴史・伝統や名所・旧跡など、文化に関する地域ブランドの魅力が全国的にも低いといった指摘があることから、本県の持つ本当の文化的価値とイメージが結びついておらず、情報発信力が弱いと考えら

れます。

⑥情報通信技術の急速な発展

インターネット等の情報通信技術の急速な発展と普及は、県境も国境も越えた対話と交流を活性化させ、情報の受信・発信を容易にしたりするなど、あらゆる分野において人々の生活に大きな利便性をもたらしています。

⑦寄附制度の拡充

一定の基準を満たすNPO法人などに寄附した際、平成24年4月から世界でも有数の税制優遇が受けられるようになりました。条件がそろえば、最大で寄附した額のおよそ半分が所得税と住民税の減額の形で戻ってくる、新たな寄附優遇の仕組みが整いました。

(2) 課題

①担い手の育成

誰もが、いつでも、気軽に文化活動に取り組めるよう、活動の場や情報の提供をはじめ、県民の文化活動を支援する団体や人材の育成、確保が必要です。

また、団塊の世代はもとより、時間的に余裕の少ない勤労者世代や子育て世代が、文化芸術の担い手となるような工夫が必要です。

②「新たな公共」による文化振興

厳しい財政状況を踏まえ、県だけで文化振興を担うのではなく、NPOや企業、地域住民など多様な主体と行政とで適切なパートナーシップを築き、新たな寄附優遇制度等も活用しながら、協働による文化振興を推進していく必要があります。

③伝統文化の保存・継承

本県には、長い歴史や風土の中で守り育まれてきた地域固有の伝統文化が数多く残されており、県民共有の貴重な財産です。

地域の絆を深め、安心・安全な地域社会の構築に欠かせない伝統文化が、将来にわたり、特に次世代を担う子どもたちに引き継がれていくよう、地域の実情に合ったきめ細かい支援が必要です。

④鑑賞機会の充実

文化施設の持つ機能を十分に発揮し、県民が身近な場所で、優れた芸術文化に接することができる環境を整備する必要があります。

⑤県内外への情報発信

群馬県が全国に誇る歴史文化遺産の価値を県民一人一人が再認識し、本県の持つ本当の文化的価値を県内外に発信していく必要があります。

3 県民等の文化に関する意識調査結果の概要

群馬県文化振興指針（仮称）の策定にあたって、県民（個人、企業、文化団体、文化施設）に本県の文化に関する意識を聞きました。

（1）概 要

①群馬の文化イメージ

群馬の文化イメージは、「古墳をはじめとした歴史文化遺産が多く存在している」が最も高い割合となっている一方、「地域の文化資産が群馬の重要な観光資源となっている」や「文化を通じた地域づくり活動が進んでいる」と回答した割合は低く、地域の文化資産（伝統文化、文化財等、世界遺産等、景観、食文化等の多様な分野において活用される文化的な価値を有する資産）が観光・地域振興に結びついていないことが伺えます。

②文化の情報

文化芸術活動を行う上での支障は、「時間的余裕がない」が高い割合となっていますが、次いで「文化活動に関する情報が少ない」となっており、必要とする文化情報が届いていない現況がみられます。

また、情報を得る媒体として、20歳以上の県民では「新聞、広報」、大学生、高校生では「Web サイト」の割合が最も高くなっています。これに対して、情報を提供する媒体は、文化団体では「チラシ、パンフレット」、文化施設では「チラシ、パンフレット」「Web サイト」となっており、情報を受け取る側と提供する側で相違があることが伺えます。

③文化活動への参加

鑑賞を除いた文化芸術に関わる参加・支援の状況は、20歳以上の県民では「地域の芸能や祭りへの参加」、大学生では「文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画などの創作・参加」が最も高い割合となっています。

内閣府の調査と比較すると、いずれの活動においても、県民、大学生ともに参加・支援の割合が高くなっています。また、内閣府の調査では「特になし」が76.1%に対して、県民では36.8%、大学生は21.5%であり、内閣府の調査と比べると少ない割合になっており、群馬県では文化芸術に関わる活動をしている人が多いといえます。

④文化団体が企業に期待する支援と企業ができる支援

文化団体が企業に期待する支援は、「資金援助」が最も高く、次いで「広報支援」となっています。

これに対して、企業が支援をできることでは「資金援助」が最も高く、次い

で「支援できることはない」、「広報支援」となっており、文化団体の要望と企業が支援をできることはある程度合致していることが伺えます。

⑤文化芸術活動への寄附

企業については約3割が寄附をしたと回答しており、県民では約1割の人が寄附をしています。また、企業に今後の県民への文化活動への支援について聞いたところ、「支援を行いたい」、「支援を検討したい」を合わせると5割を超える、前向きな回答がありました。

寄附を増やす方法として、県民では「寄附金の収支が明確になること」、大学生では「寄附先の情報が積極的に提供されること」の割合が高く、他方、企業、文化団体、文化施設では「寄附に対する控除など納税の際の優遇措置」が最も高い割合となっています。

⑥文化施設の利用

20歳以上の県民の半数以上が、この1年間に美術館・博物館を1回以上利用したことがあると回答しています。これは、内閣府の調査を若干上回る結果となっています。また、文化ホールへは、ほぼ半数近くが、この1年間に1回以上利用したことがあると回答しています。

今まで以上に、県内の美術館・博物館・文化ホールに行くために必要なことについて聞いたところ、県民では「展覧会・催し物の開催に関する情報をわかりやすく提供する」、大学生では「全国的あるいは世界的に著名な芸術家などの展覧会・催し物が開催される」、高校生では「入場料や使用料が安くなる」が最も高くなっています。これに対して、文化施設の利用増に向けた取組では「文化活動に関する情報の提供」が最も高く、次いで「設備を充実する」となっています。

⑦文化振興に関する施策の満足度と重要度

県民では「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっており、その他の施策については、重要度はすべて高くなっていますが、満足度はすべて平均値より低くなる結果となりました。中でも「次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供」の重要度は2番目に高いが、満足度はその他の施策と比較しても、低い結果となっています。

大学生でも「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。次に「伝統文化、有形・無形の文化財や歴史的な文書・記録の保存・活用（世界遺産などへの登録等を含む）」となっています。重要度では「次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供」が最も高く、満足度では「自主的に文化活動を行うための機会の充実」が最も低く結果となりました。

⑧文化の担い手

県民、大学生、企業、文化団体、文化施設ともに、8割を超える人たちが、県民一人一人が文化の担い手になることは大事だと考えています。

⑨文化活動の継続に必要なこと

県民、大学生、企業、文化団体、文化施設ともに、「誰もが自主的に文化芸術活動に参加しやすい環境づくり」が最も高くなっており、次いで「文化活動を支援する人材や団体の育成」と「文化活動に関する情報発信の充実」の割合が高くなっています。

(2) 課題

①地域の文化資産を活かした観光・地域振興

本県が全国に誇る歴史文化遺産をはじめとした地域の文化資産を観光・地域振興に結びつけ、県内外に情報発信することで、本県の文化の実力に見合ったイメージアップを図る必要があります。

②情報提供のあり方

情報を受け取る側（ターゲット）の視点に立って、必要とする情報を的確に、ターゲットが利用する広報媒体で提供する必要があります。

③文化団体と企業とのマッチング

企業が県民の文化活動への支援を促進するため、企業側ができる支援と文化団体が期待する支援とのマッチングを図る必要があります。

④寄附文化の醸成

アンケートに回答した企業の5割以上が、「支援を行いたい」または「支援を検討したい」と回答しており、文化活動に対する寄附を増やすため、寄附がしやすい環境の整備に取り組む必要があります。

⑤文化施設の利用促進

文化施設の利用者を増やすためには、展覧会・催し物の開催に関する情報をわかりやすく提供するとともに、全国的あるいは世界的に著名な芸術家などの展覧会・催し物を提供する必要があります。

⑥群馬特有の文化の振興

上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興については、他の施策

と比べて満足度・重要度ともに高いことから、継続して取り組む必要があります。

⑦子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供

子どもたちの豊かな心や感性を育むとともに、将来の文化芸術の担い手の子どもたちが文化芸術や伝統文化に触れる機会の充実に、これまで以上に取り組む必要があります。

⑧文化力の向上

文化芸術が県民に元気を与え、地域社会を活性化させて、心豊かな活力ある地域づくりを推進する力（文化力）を有していることを踏まえ、本県文化力の向上を図るため、県民ニーズにあった取り組みを積極的に進める必要があります。

⑨文化活動に参加しやすい環境の整備

8割を超える人たちが、県民一人一人が文化の担い手になることは大事だと回答していることから、本県の文化活動を活発にするためには、誰もが自主的に文化芸術活動に参加しやすい環境の整備や文化活動を支援する人材・団体の育成、情報発信の充実を図る必要があります。

第3章 群馬県が目指すべき文化行政の方向性

【基本理念】

心豊かな文化にあふれた活力ある「文化県群馬」の実現を目指し、先人から受け継いできた「群馬の限りない可能性」を大きくはばたかせる

〈基本理念の考え方〉

今日、社会環境、経済状況等の変化により人と人、人と地域とのつながりが希薄になってきています。このような環境の中、県民による主体的で多様な文化活動を尊重することを基本として、文化の振興、文化を通じた人づくり、文化資産の保存及び活用などを図っていくことは、郷土への誇りと愛着を深め、心豊かな活力ある地域社会の形成につながるものです。

本県の文化を取り巻く環境が大きく変化する中、昭和56年3月に県議会で議決された「文化県群馬」宣言の精神を引き継ぎ、心豊かな文化にあふれた活力ある群馬県を築いていきます。

【基本目標】

1 自主性、創造性及び多様性の尊重

文化を創造し、享受することが人の生まれながらの権利であることを踏まえ、文化活動を行う者又は文化活動を行う団体の自主性、創造性及び多様性を十分に尊重します。

2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備

文化活動が県民に喜びや感動、潤いを与えること、文化活動が地域の活性化につながるものであることを踏まえ、県民が等しく、文化を鑑賞し、文化活動に参加し、文化の創造を行うことができる環境の整備を図ります。

3 文化の継承及び発展を担う人材・団体の育成

文化活動が子どもたちの豊かな心を育成することや、地域の支え合う力を維持することなどを踏まえ、文化の継承・発展を担う人材や団体の育成を図ります。

4 文化資産の保存及び活用

豊かな自然と、歴史風土に培われてきた地域における文化資産が、県民の貴重な財産として生まれ、将来にわたり引き継がれるべきものであるとともに、観光や地域振興につながり、地域を活性化させていくものであることを踏まえ、文化資産の保存・活用を図ります。

5 情報の発信及び文化交流の促進

文化活動が国内外の人と人、地域と地域の相互理解を深めるために重要な役割を果たすものであることを踏まえ、多様な文化との交流に努めます。また、県民一人一人が群馬の歴史や文化を再認識するなど、文化に関する情報の発信力を強化します。

6 県民の文化活動への支援体制の充実

県民の文化活動が継続的に行われるべきものであることを踏まえ、県民の文化活動が活発に行われるよう、市町村、民間の団体、企業、研究教育機関等と連携した文化振興施策の総合的な支援体制を充実します。

第4章 指針に基づく施策の推進に当たっての考え方

1 県民等との協調

指針に基づく施策の推進に当たっては、県民、市町村、大学、企業等との連携が不可欠であり、県政の基本姿勢である「対話と協調」のもと、県民が何を望み、何を必要としているか、しっかりと把握し、連携を密にして、県民目線で文化振興に取り組みます。また、地域の実情にあったきめ細かい文化振興施策を展開します。

2 長期的・広域的な視点での推進

本県の現状と県民ニーズ、時代の潮流を踏まえた、長期的かつ継続的な視点に立って施策を実施する必要があります。また、県と市町村の役割分担を明確にし、広域的な視点で、市町村と協力・連携しながら文化振興施策を推進します。

3 横断的かつ総合的な施策の実施

文化が広く社会への波及力を有することを考慮し、教育、福祉、地域振興や観光・産業振興、国際交流など他分野との連携を踏まえ、県庁内関係課、関係団体等の連携を強化し、横断的かつ総合的に文化振興施策を推進します。

4 実効性の確保

厳しい財政状況の中、群馬県文化振興基金を活用するとともに、各施策の評価・検証を行いながら、文化振興施策の着実な推進を図っていきます。

また、文化振興基金の充実を図るため、県民からの寄附を促進するための仕組みづくりを進めます。

5 必要な見直しの実施

本指針については、諸情勢の変化や施策の効果に対する評価を踏まえ、柔軟かつ適切に見直しを行います。